



ひまわりノ畑



教育目標 思索・和敬・剛健

R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/~kivosedai/kyuuzakku/index.htm>

「とおりゃんせ」発祥の地を訪ねて

川越校外学習 1学年総合 10/31(金)

10月最終日に、1学年「川越校外学習」がありました。前日の天気予報では午後から雨でしたので、ネットで雨雲の動きを確認しながらの一日でしたが、生徒たちがちょうど本川越駅に戻ってくる頃に雨粒が落ち始め、川越散策している間は、風も無く程よい曇空となり、朝は時折、青空も見えていました。昼食は三芳野神社の広場にシートをを広げ、ピクニック気分でお弁当を食べた班が多かったようです。丸一日、徒歩移動で足が疲れましたが、楽しかったです。

川越は小江戸と呼ばれ、コンパクトながらも江戸の風情を残すように街づくりがなされており、鉄道が3路線と都心へのアクセスも良く、江戸時代をテーマにした日帰り観光地と、住宅地との調和した街づくりがされています。また鎌倉から江戸時代まで、特に戦国時代に太田道灌によって川越城が作られてからは、江戸の守りと、地方との往来の要としての歴史と文化もあります。各学級5班の全15グループでの

見学先は、28か所、ひと班平均7.5か所を訪問してくれました。見学班が多かった場所は、チェックポイントの市立博物館を除くと、菓子屋横丁(13班)、三芳野神社(10班)、時の鐘(9班)、そして氷川神社(8班)で、本丸御殿、時の鐘、旧山崎家別邸などの歴史文化建造物が9か所、氷川神社、熊野神社、喜多院などの神社仏閣が8か所、菓子屋横丁、小江戸横丁、大正浪漫夢通りなどの商店が11か所でした。本校の学びのテーマでもある「清瀬の街づくり」に繋がるSDGsを学ぶにも、歴史を学ぶにも、ピッタリと当てはまる校外学習でした。博物館の展示や訪問先で受けた説明のメモを取ったり、街の造りを観察したりと、楽しみながらしっかりと学んでくれたようです。川越の地で、生徒の皆さんが、どんなモノ、どんなコト、どんなSDGsを見つけてくれたのか、まとめ発表が楽しみです。

多くの班が昼食をとっていた三芳野神社の境内に童謡「とおりゃんせ」の歌碑がありました。この神社が発祥の地と言われています。TVやネットのなかった時代に、子供たちの口伝で、この地から波紋のように全国に広がったと想像すると、凄いコトだという気がします。そして碑の前で、ふと「あんたがったどこさ」も川越が発祥という話を聞いたことを思い出しました。川越には「せんば山」と呼ばれる地域があり、歌ってみると出身地を聞く会話のような歌詞なので、熊本以外でも成り立ちそうです。仙波地区にある日枝神社や、徳川家と関係が深い喜多院や仙波東照宮に行き、徳川家康公を狸に例えることもあります。何か関係があるのではなどと考えながら、散策しました。しかし関連するような案内などはなく、童歌の正式名称も「肥後手毬唄」であり信憑性は低そうでしたが、狸が住んでいそうな雰囲気はありました。そういえば清瀬でも、鉄橋下の空堀川あたりで、タヌキを見かけたことがあります。また、三芳野神社に「川越城の七不思議」という看板もありましたが、川越には他にも「喜多院の伝説」「川越妖怪話」などがあります。清瀬にも「びわかけの松」「ひいらぎ伝説」など8つの民話がありますので、話しに出てくる場所を訪ね歩くのも面白そうです。



川越氷川神社



サツマイモまんが資料館



時の鐘



三芳野神社 昼食



川越城本丸御殿

■第53回清瀬市民文化祭 舞台部門 吹奏楽部 特別参加 11/1(土)

11月1日(土)・2日(日)に、清瀬市文化協会が主催(後援 清瀬市)する清瀬市民文化祭が開催され、けやきホールで開かれた舞台部門に、吹奏楽部が出演させて頂きました。清瀬高校ダンス部や地域のサークルなど13団体が参加し、そのトップバッターとして、100名を超える観客の皆様演奏を聴いて頂きました。1・2年生のメンバーによる演奏会の参加は2回目となり、今回は3曲を演奏してくれました。舞台での様子にもゆとりがあり、落ち着いていたように思います。20分ほどの舞台はあっという間で、青いユニホームが舞台にとっても映えていました。同じけやきホールで、3月に本年度最後の定期演奏会を開催する予定ですので、ぜひご来場下さい。



演奏曲は、1 プロヴァンスの風
2 アフリカンシンフォニー
3 銀河鉄道 999

※演奏の様子は、右のQRからご覧ください。

限定公開で、期限は～11/30(日)までです。



1 プロヴァンスの風



2 アフリカンシンフォニー



3 銀河鉄道 999

●赤ちゃんが五中にやってきた！《いのちの教育》3年生 11/6(木)

～命の大切さを知り、思いやりの心を育む「赤ちゃんのチカラ」プロジェクト～

清瀬市では、自他の生命を大切にすることを育む「命の教育」の一環として、赤ちゃんのチカラプロジェクトを推進しています。

赤ちゃんのその温かさや重み、ミルクの香り、柔らかい肌、泣き笑いの表情などに触れあうと、人に優しくなる心が、体の芯から湧き上がってくるような感覚になります。赤ちゃんは、不思議な力を持っているようです。

今回、NPO 法人子育てネットワーク・ピッコロさんのスタッフ15名と、赤ちゃん11名と保護者の方々が来校して下さい、学級毎に講習会と交流会を行いました。ご多用の中、生徒の学習のためにご協力を頂き、感謝申し上げます。ありがとうございました。

幼児との触れ合いだけでなく、子育て中のお母さん方との交流も、大切な経験となりました。家庭科の授業で育児について学びますが、この体験でさらに学習が深まりました。小学校5年生でもこの取り組みを経験しますが、大人に一步も二歩も近づいた思春期の中学生で受けるのでは、感じるもの、考えるものが違ったと思います。平成22年に「赤ちゃんのチカラプロジェクト・ジュニアサポーター養成出前講座」として始まったこの取組も16年目となりました。授業を受けた生徒の皆さんには、「ジュニアサポーター認定書」が交付されました。



■小中連携研修会 11/5(水) & 校内研修会 11/7(金)

本校では清瀬第十小学校との連携教育を推進しており、11/5(水)に小中合同研修会を実施しました。小学校の先生方に5校時の授業を参観して頂き、その後アルティメット競技講習会を行いました。体力向上のため、縄跳びやラジオ体操に加えて、小中共通の取り組みとして、取り入れる試みをしています。本校には、この競技を専門とする体育教員がおり、講師となり研修会を開きました。体育の授業以外でも、球技大会やレクリエーションで取り入れられますので、全教員が研修を受けました。また、11/7(金)の校内研修会では、スクールカウンセラーの中條さんに講師をお願いし、特別支援教育を考える上で求められること、基本的なポイントについて講演をいただき、研修を行いました。

